

ワーカーズコープ 子ども子育て事業 パンフレット



「僕らは未来を生きようね」

子どもが育つ
私が育つ
地域で育つ
ワーカーズコープからのご提案

2018

もくじ

ごあいさつ	1
協同労働の子育ち指針	2
ワーカーズコープ子育ち事業のあゆみ 2017 年度全国事業実績（子育ち事業）	4,5
子ども子育ち事業案内	6
協同総合福祉拠点	16
子ども子育ち事業案内	18
都道府県ごと事業所数（全体）	20
子ども子育ち事業案内	21
働いている人の声	23
よい仕事を高めるために	24
識者からの期待の声	26
書籍・映画	28
フォーラムの紹介	29
ワーカーズコープとは？	30
協同労働の協同組合の原則	31
編集後記	32



ワーカーズコープセンター事業団 理事長
田中羊子

ワーカーズコープの子育ち事業は、1980年の院内保育所の運営からスタートした。4月に入園した病院職員の子どもたちが認可保育園に入ると1人、2人と去っていく。広い園庭があるのに利用できない親子がうらやましそうに通り過ぎていく。そんな中で仲間たちは、通年で見通しを持って保育にあたりたい、地域に開かれた保育園でありたいという思いを募らせていく。そして、できることから始めようと子育てサポーター講座を開き、受講生と一緒に地域子育て支援グループ「あざみ」を発足。近隣の学童クラブや商店街での子育てひろばの運営にも挑戦していく。そして2005年に念願の認可保育園（板橋こぶし保育園）の運営を受託。選定理由として、「玄人の花（社会福祉法人）の中に、素人の花がぽつと咲いたような印象だった。家庭も職場も地域も刻々と変化していく中で、固い制度や専門性に立つのではなく、目の前のニーズに柔軟に応えていこうとするワーカーズコープの姿勢に期待した」と言って頂いたことが本当にうれしく、今も心に残っている。

その後、指定管理者制度の導入と共に「子育ての市民化・社会化」を理念に掲げるワーカーズコープへの共感が広がり、学童保育や児童館の運営が全国に大きく広がっていく。「協同労働の子育てとは何か」の問いを正面に据えて格闘する日々。制度から子どもや親をみるのではなく、ありのままを受け止め、その必要や願いを共に実現していきたい…。この子育てパンフレットには、こうした思いから生まれた全国の実践がいっぱいつまっている。障がいをもつ子どもたちの放課後の居場所づくり、保護者同士のつながりをつくる寄り道カフェ、こども食堂の広がり、地域先生の掘りおこしと農業体験や木育の取り組み。

そして今、多くの現場で、ひきこもりの若者や働くことに社会的困難を抱える人たちが、子どもたちにその力を引き出され、生きる自信を回復していく場となっている。

教育学者の大田堯先生は「教育とは、命というただひとつのユニークな種が自ら花開いていくのを助ける役割。だから違いを大事にすることは命を大事にすることそのもの」と言われる。そして、この命の本質に沿って子育てを深めるという営みは、「違いを認め合い、互いの力を生かし合う」という協同労働の働き方の核心を深めることにつながっている。

今、協同労働の協同組合が法制化されようとしている。3人寄れば、届出だけでワーカーズコープをつくり、地域に必要な仕事を自分たちの手でつくりだせる時代が、すぐそこに来ている。すでに「子どもが卒園しても楽しみに通えるワーカーズコープの学童保育をつくりたい。」「一時保育を、親たちの手で立ち上げたい。」「孤立死が続く団地に、多世代の居場所をつくりたい。」「放課後等デイの卒業後の子どもたちが輝ける、働く場をつくりたい。」という親や住民の願いがたくさんよせられている。そんな1人ひとりの声を大切に聞き取り、地域の中で重ね合わせ力を合わせて実らせていきたい。社会の壁の前に1人では諦めてしまうことも、「みんなとならできるかもしれない」という自分と他者への信頼と希望を生み出していく。そんな新しい社会づくりにつながる協同労働の子育ちを、市民みんなの力で発展させたいと心から願っている。

協同労働の子育ち指針

子どもたちは未来そのものです。子どもたちが大切にされない社会に未来や希望はありません。今、私たちが暮らす日本社会はどうなっているのでしょうか。子どもの貧困率が13.9%（2015年時点）にも達し、7人に1人の子どもが何らかの貧困状態にあえいでいます。また、急速な核家族化や地域のつながりの希薄化、社会的孤立の広がりによる孤独や心の病も広がっています。塾に行くのは当たり前など受験競争もますます激しくなり、人を能力の有る無しで見てしまう考え方や、自己責任を強調するあまり「たすけて」という言葉さえ素直に言い出せない空気も広がっています。

私たちワーカーズコープは、「共に生き、共に働く社会の創造」を合言葉にすべての子どもの命や人権が大切にされる協同の社会づくりを目指してきました。

この指針は、全国の実践やこれまでの協同労働運動の到達点をまとめたものでもあります。協同労働の子育ちとは何かという問いをみんなで深め、協同労働の「よい仕事」をより一層高めていきましょう。



1. 協同労働は「命」「自然」「働く」「暮らす」をベースに「共に生き」「共に育ちあう」社会を目指します

そのために

1. 1人1人の子どもの違いや個性を尊重します
2. 子どもの持つ力を信じ、育てます
3. 子どもたちの命をはぐくむ自然、人、文化など豊かな社会関係をつくり出します

2. 協同労働の子育ち5つの指針

①命の基礎である自然や食、地域の文化、人と人との関係を大切にします

- ・子どもの心と体をつくる食、自然体験を重視します
- ・地域や日本の暮らしの中にあった伝統行事や文化を継承し、大切にします
- ・人と人との関係の基礎となる豊かな「あそび」を共に創り出します

②当事者主体と豊かな人間関係を広げます

- ・主人公は子ども。子どもの想いと自主性を中心に置き、組合員は子どもから学ぶ姿勢を大切にします
- ・子どもたちがゆったりした時間とたっぷりした経験を持てる居場所づくりをすすめます
- ・子どもを通じた親育ちを重視し取り組みを進めます
- ・子ども、親、地域との協同の関係づくりを広げます
- ・子どもたちが安心して失敗できる場と関係性をつくりだします



③子どもの願いや課題を真ん中にすえた、 生活まごとの仕事おこし・まちづくりをすすめます

- ・子どものSOSをキャッチできるアンテナを高めます
- ・子ども、親の願いや困難に向き合い、まごとの仕事おこし、まちづくりに挑戦します
- ・地域の市民や行政とも協同した、社会連帯のまちづくりを広げます

④よい仕事を生み出す協同労働の団づくりを大切にします

- ・7つの原則に基づく団づくり、自由な発言と人の意見をしっかり受け止めることができる関係づくりを基本とします
- ・悩んだときは「まずはやってみる」という実践する姿勢を大切にします
- ・学習、研修など学びあいの時間と文化を生み出します
- ・全国の仲間との連帯・学び合いを大切にします
- ・社会連帯経営による経営の連帯性や主体性を高め、健全経営を守ります

⑤子どもの命を守り育む平和、基本的人権、民主主義、自然環境文化など 人類が幾多の苦難を経て築いてきた貴重な財産を大切に継承します

- ・平和の基礎となる、相手を思いやる心を育て、能力や国籍、性別などによる差別、偏見をなくす取り組みを広げていきます
- ・子どもの人権や民主主義について日ごろからアンテナを高くはり、話し合いや学習をします。またそれらを守り発展させる運動に積極的に関わります
- ・世界の子どもの現状や文化を知り、交流を広げます
- ・持続可能な社会づくりに貢献します

ワーカーズコープ子育て事業のあゆみ (抜粋)

1980 年 東京都老人医療センター内院内保育室
ひまわり保育園

2001 年 渋谷区東京都児童会館「のびのびひろば」

2002 年 学童クラブ板橋第一小学童クラブ（現板
一小あいキッズ）／鹿児島・奄美地域福祉
事業所「がじゅまる」／商店街の中に、子
育てのひろば「どんぐりのおうち」

2003 年 足立商店街活性化のための「青井わくわ
くクラブ」

2004 年 児童館新宿早稲田南町こども館（現児童
館）、榎町児童センター（現在は学童クラ
ブと一時保育のみ）／足立区 子育てホー
ムサポート事業

2005 年 認可保育園 板橋こぶし保育園／栃木県
大田原市児童デイサービス（現放課後等
デイ）「ぴのきお」※のちにこども館くれよん
に改称（一時保育、学童、児童発達支援事業、
病後児保育）／厚生労働省より芝山若者自
立塾開講（2010 年 3 月まで）

2007 年 放課後子ども教室港区「放課GO→」（港
陽小他 1 か所、現在全 2 か所）／待機児童
解消のための暫定保育室港区立東麻布保
育室／新潟県、宮城県で若者サポース
テーション

2008 年 江東区認証保育所（東京都独自の制度）
亀戸のびっこ保育園／港区総合支援施設
Pokke（子育てひろば、一時保育、トワイ
ライトステイ、ショートステイ）

2018 年度 全国事業実績（子育て関連事業）



地域と歩む保育園

板橋区立こぶし保育園

東京都板橋区 / 主に乳幼児



みんなが育つ・みんなで育つ・地域で育てる

こぶし保育園は公設民営の保育園です。「みんなが育つ・みんなで育つ・地域で育てる」を理念に運営しています。地域の方々に、子どもたちが地域で育つことを大事にしていきたいこと、ともに子どもたちの育ちを支えてほしいことを伝え、賛同を得て「地域先生」として保育園を応援して下さいます。

赤くなったトマト、おいしいね

広い畑で自然に触れる機会をもらい、「虫

見つけたよ」「大根抜けないよー」「赤くなったトマト、とってもいいよ。おいしいね」と興味、関心を持ち感性が養われています。町内会長をしている和太鼓の先生が直接指導にきて下さったり、老人会の方々とゴミ拾いをするなど、地域の皆さんに可愛がられています。保育園だけでは得られない貴重な体験により心も体も元気に豊かに育っています。卒園した子どもたちにも「こぶしっ子」として夏祭り・運動会の手伝いに来てもらい、成長を目にする機会も楽しみです。

(所長 三井貴子)

自然に恵まれた奄美だから

結の島地域福祉事業所 森の家くっかる

鹿児島県奄美市 / 主に乳幼児

自然の中で過ごして欲しい

森の家『くっかる』は2009年10月に無認可保育所・学童保育・生活総合支援などの複合事業所として開所しました。『自然に恵まれた奄美だから、自然の中で

子どもに過ごして欲しい』という思いから、郊外の古民家を借りました。

奄美初の病児病後保育施設

開所当時、奄美(奄美群島も含め)には病氣中やその回復中の子どもを預かる『病児保育』『病後児保育』を行う施設が

1カ所もありませんでした。そこで訪問による病児保育事業を開始し当面の困りごとに対応するとともに、病児保育施設の早期開設の嘆願署名を集めました。そして活動から2年半後、奄美市や奄美医療生活協同組合の尽力もあり、同組合が運営する奄美中央病院に病児保育・病後児保育施設が設置されたのです。

初年度に預かった5歳の子どもは中学生になりました。成長し大きくなっても生きづらさや困りごとを感じた時に「居場所」になれる事業所でありたいと思っています。

(所長 越間聡美)



介護から保育へ

保育所ぶどうの樹事業所

愛媛県松山市 / 主に乳幼児

ともに育ち、ともに生きる

保育所ぶどうの樹は、愛媛県松山市にある定員30名の認可保育所です。住宅地にあります。周りには田んぼや畑などの自然がまだ残っています。

2004年、介護事業所の託児所としてスタートしました。アットホームで子ども1人ひとりを大切に保育が評判となりました。保護者の口コミが広がり地域保育所から認可保育所となりました。

私たちは「ともに育ち、ともに生きる。みんなで助け合い、育ち合う保育園」を理念にしています。歩育・食育・親育を柱に、子どもが主人公となる保育を実施しています。

「やらされる」ではなく「やりたい」

夏には、1泊2日の日程で離島にお泊り保育を実施。離島の住民・卒園児とその保護者

の協力を得ながら行っています。保育所ぶどうの樹の年長児にとっては成長できる行事の一つとなっています。

1年間を通して、さまざまな行事がありますが、子どもたちにとって「やらされる」行事ではなく「やりたい」行事に取り組んでいます。

(園長 天白智子)

